

意見交換会開催内容（⑥稲田小学校）

日時：平成24年6月15日（金）午後7時～8時

場所：稲田小学校 体育館

出席者：14名

意見：「学校の適正配置に取り組む理由」の中に複式学級の解消とあるが、複式学級は教育上好ましくないと受け取れるがどうか。

回答：複式学級では1・2年生や3・4年生、5・6年生が同じ教室で一緒に授業を受けることとなります。この場合、1つの学年の授業をしている間、もう一方の学年は練習問題などの別のことをしています。中には上の学年のことまで覚える子もいますが、つまずいてしまう子にはなかなか手厚い指導をする機会が得られませんので、教育環境としては最善ではないと考えています。

意見：統合で一番問題になるのは通学だと思う。稲田中学校が笠間中学校に統合した場合、スクールバス1台では間に合わないし、下校時間も違う。

回答：笠間中学校に行くとなると大変な距離になりますが、その場合の交通手段については保護者の皆さんと納得がいくまで話し合っていくこととなります。これまでの意見交換会でも通学のことを一番心配されていましたし、統合に向けて解決しなければならない課題もたくさんあります。稲田中学校は現在1年生と2年生がそれぞれ1クラスで3年生が2クラスですが、稲田小学校から入学してくる子どもたちの人数や未就学児の人数を見ると、今後も2クラスを維持していくこととなります。将来の出生数によっては統合の対象になる可能性がないわけではありませんが、そのときには既に統合した学校の事例を参考にしていくこととなります。

意見：適正配置方針では、笠間地区が将来的に笠間小学校と稲田小学校の2校体制になる。その場合、他校の児童は笠間小学校にすべて集約され、稲田小学校はそのままの状態になるのか、それとも学区の見直しを行うのか。

回答：稲田小学校の学区はそのまま、東小学校・佐城小学校・箱田小学校の学区を笠間小学校の学区にするという考え方で進めています。ただし、笠間小学校よりも稲田小学校のほうが近い場合や友達関係で稲田小学校に行きたいという場合は、保護者や児童の希望を十分に考慮していく必要があります。

意見：笠間小学校が大きくなる反面、稲田小学校はどんどん衰退して将来的に適正規模を維持できなくなるのではないかという心配がある。であれば、稲田小学校の周囲を稲田小学校の学区にして児童数を増やす必要があると思う。

回答：稲田小学校に限らず、これまでの検討委員会や学区審議会でも同様のご意見をたくさんいただきました。ただし、最終的には、従来の学区の分割ではその地域の理解が得られないという判断がなされた経緯があります。

意見：笠間小学校の児童が多くなることによって優遇措置がとられ、稲田小学校は現状で我慢してほしいというようなこともあるのではないか。南小学校へはスクールバスで安全に通うことができるが、道を一本はさんだ稲田側の地域は歩道のない危険な道路を歩いて通うというような格差が生じてしまっては困る。

回答：児童総数で見ると笠間小学校は多く、稲田小学校は少ないということになりますが、クラスごとの学習環境で考えると、どこでも同様の学校経営がなされています。教育委員会としては規模の大小や統合によって格差が生じるとは考えていません。